

イワシ類シラスの漁場形成の研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成7年度～)

担当：漁業開発部資源海洋研究室

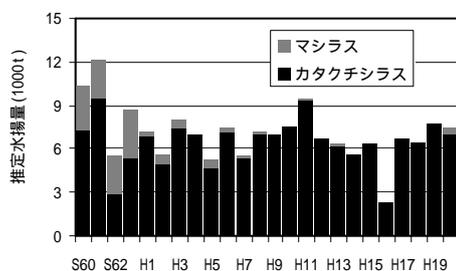
【研究の背景とねらい】

イワシ類シラスは、静岡県において年間40億円を超える水揚額があり、沿岸漁業で最も重要な魚種の一つとなっています。

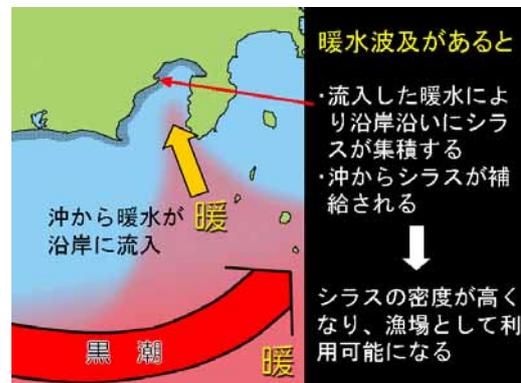
イワシ類シラスについて水揚統計の資料を収集し、漁獲物の全長組成や卵稚子の分布など生物学的特徴を調査することで、シラス水揚量の変動特性、並びに漁場来遊群の大きさと沿岸海況の短期変動との関係を検討し、シラス漁場形成機構について解明し、漁況予測につなげます。

【これまでに得られた成果】

- ・近年のシラスの水揚では、マイワシの水揚は極めて少なく、ほとんどはカタクチイワシが占めています。
- ・ふ化後日数と全長との関係から、海域及び時期により成長速度に差がみられました。
- ・水揚物の全長組成から、シラスが断続的に漁場へ加入していると推察されました。
- ・暖水波及等の沿岸海況の短期変動は、シラスの漁場加入に大きな影響を与える要因の一つとなっていました。
- ・黒潮大蛇行時にはシラスが不漁となることが分かりました。
- ・漁獲の季節変動には4パターンが認められ、初漁期にそれを利用した漁況予測の可能性が見出されました。
- ・漁期前にシラス漁況の長期予報を行いました。



県内主要6港におけるシラス種別推定水揚量の推移(平成16年は黒潮大蛇行で不漁)



シラス漁況に暖水波及が与える影響の推定模式図

【期待される成果】

- ・漁況予測が可能になることで、シラス漁業者は効率的な操業が、シラス加工業者は在庫管理等の面において計画的な経営が可能となります。

【今後の計画】

- ・漁場加入前のイワシ類シラスについて精度の高い採集調査を実施し、漁場加入に至るまでの機構やシラス漁況との関連について検討します。
- ・漁場来遊量、海況の短期変動等の検討を行い、シラス漁況の短期予測手法を開発します。

(作成 平成21年4月)